

The Japan Association of Radiological Technologists  
ネットワーク・ノウ

# Network Now

2017 No.501

9/1

JART情報  
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会  
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1  
世界貿易センタービル31階  
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



## 平成29年度 ワークショップ および平成29年度 第3回 理事会 開催される

平成29年7月8日(土)から9日(日)の2日間にわたり、平成29年度ワークショップがハートピア熱海で開催された。

「六年制教育で何を教えるべきか」「新教育システム“クリニカルラダー”の活用について」および「新事務所の在り方について」の3つのテーマを1グループ6人から7人のメンバーで行った。初めに、熊代副会長より趣旨説明およびワークショップの進め方とKJ法の説明があった。KJ法とは、ブレインストーミングなどでカード化された多くの意見・アイデアをグループ化し、理論的に整理して問題解決の道筋を明らかにしていくための手法である。

「六年制教育で何を教えるべきか」では、大学教育の臨床的な研究力と教育力が必要であり、臨床現場と人財を交流することが重要であるとの意見であった。「新教育システム“クリニカルラダー”の活用について」では、理解され、参加しやすく、また従来の生涯教育の実績も反映され、社会や国民から認められるシステムであるべきと述べられた。「新事務所の在り方について」では、移転時期はすでに決まっているため、

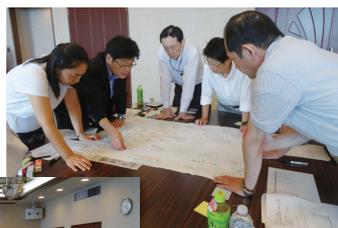


事務所の面積、インフラおよびオフィス環境など、どのような項目を優先するべきかが述べられた。また会員に理解を得るため、広報なども重要であるとの意見であった。どのチームの発表に対しても多くの質疑などがあり、盛会のうちに終了した。

9日(日)の午前11時半から午後1時半には、平成29年度第3回理事会が開催された。

議題に入る前に、中澤会長より「大学設立情報について」「被ばく低減施設の認定取得について」「画像の管理体制について」厚生労働省への要望を提出した話があった。

理事会の主な議題は「江間賞・学術奨励賞受賞者について」「委員会の組織構成および委員の承認について」など4議題であった。主な報告事項は「JART政策要望書」「平成28年度事業報告の内閣府への提出について」「学術教育委員会報告」「国際委員会報告」「広報委員会報告」「調査委員会報告」「診療報酬政策立案委員会報告」「医療安全対策委員会報告」「会員情報システムの平成29年度改修について」「放射線取扱主任者定期講習の立入検査について」「業務拡大に伴う統一講習会進捗報告について」「第33回函館学術大会の進捗について」



および「第78回定時総会における表彰者人数の相違について」など、21の項目があった。

議題の「委員会の組織構成および委員の承認について」では、広報委員会および定款改正・諸規定見直し委員会の委員に変更があり、承認された。報告事項の「JART政策要望書」では、10の要望事項が記載されており、積極的に行政に要望することであった。「学術教育委員会報告」では、第11回日本診療放射線技師会・日本放射線技術学会 公開合同セミナーの開催について報告があった。「調査委員会報告」で

は、平成29年度診療放射線技師業務に関する調査報告について説明があり、調査回答数が少なく、各地域へ再度要請した。「診療報酬政策立案委員会報告」では、平成30年度診療報酬改定に関する要望書の13項目についてまとめられていた。「医療安全対策委員会報告」では、放射線業務の安全の管理マニュアルについて報告があった。最後に、各地域理事より報告があり、本理事会は終了した。

本理事会の詳細な内容は、平成29年度第3回理事会議事録(抄)を参照されたい。

## 平成29年度 新任会長会議開催される

平成29年7月23日(日)、本会事務所会議室で平成29年度新任会長会議が開催された。本会から中澤会長、佐野副会長、熊代副会長他3人、各県からは7人の新任会長(宮城県診療放射線技師会 立花会長、群馬県診療放射線技師会 後閑会長、岡山県診療放射線技師会 大野会長、鳥根県診療放射線技師会 山田会長、佐賀県診療放射線技師会 柿本会長、熊本県診療放射線技師会 西小野会長、鹿児島県診療放射線技師会 太田原会長)が出席した。

初めに、中澤会長より3つの話があった。1つ目は、統一講習会への受講者増員への協力について。2つ目は、診療報酬要望書を厚生労働省へ提出した報告について。3つ目は、診療放射線技師国家試験委員の在り方について精力的に活動していることについてであった。その後、本会および各県の新任会長がそれぞれ自己紹介を行った。

主な議題は「JARTの事業について」「技師法改正(案)について」「地域における養成校設立と業務拡大に伴う統一講習会について」「都道府県との業務委託契約について」「JART組織と表彰規程について」および「新任会長からの要望について」であった。

「JARTの事業について」では、中澤会長より日本診療放射線技師会の10の政策(養成教育の四年制大学の必要性、医学物理士の在り方、医療安全のための適切な管理体制の構築など)の説明がされた。「技師法改正(案)」では、小冊子を全国会長会議などで配布し、会員や立法院を取り込んで精力的



に改正へ向けて活動することが述べられた。「養成校設立と統一講習会」では、江田理事より専門学校の設置認可について説明があり、実例を基に診療放射線技師の大学養成教育の必要性を述べた。また中澤会長より、大学養成教育について本会の方針を各県の行政にご理解いただけるよう協力要請があった。また北村理事から統一講習会の現在の進捗状況について報告があった。「都道府県との業務委託契約について」では、小田理事より業務委託・学術業務委託および経理処理について説明があった。「JART組織と表彰規定について」では、江田理事より本会の組織について、および永年勤続表彰規程の注意事項について説明があった。

最後に、中澤会長から技師法改正の大きな武器になる業務実態調査の重要性と調査への協力要請がされた。

各議題について多くの質問が上がり、盛会のうちに閉会となった。



立花会長



後閑会長



大野会長



山田会長



柿本会長



西小野会長



太田原会長

## TWSRT Chiung-Wen Kuo会長来訪

平成29年7月18日（火）、Taiwan Society of Radiological Technologists（TWSRT）のChiung-Wen Kuo会長が本会事務所を来訪された。本会からは中澤靖夫会長、木村由美専門職、保川裕二専門職ならびに木村友里子秘書がお迎えした。第33回日本診療放射線技師学術大会/第24回東アジア学術交流大会への参加協力と、双方の国における診療放射線技師の業務事情などについて意見交換を行った。



## 平成29年度 第1回 JART-JIRA定期懇談会 開催される

平成29年7月14日（金）午後4時より、本会事務所において本年度1回目のJIRA（一般社団法人日本画像医療システム工業会）との定期懇談会が行われた。

本会からは中澤会長、佐野副会長、熊代副会長、小田理事、江田理事、野村事務局長の6人、JIRAからは小松会長、木村専務理事、野口経済部会長、古川法規・安全部会長、森事務局長、横田総務部長の6人が出席した。

本会からは、創立70周年記念式典へのお礼、診療報酬要望書についての内容、Aiガイドラインについて、中小医療機関向け医療機器保守点検の在り方に関する研究班について、医療放射線の適正管理に関する検討会について、第33回日本診療放射線技師学術大会について報告した。

JIRAからは、JIRA創立50周年祝賀会へのお礼、最近の



JIRAの活動について、経済部会、法規・安全部会についての報告と説明がされた。

今回の懇談会においても、今後の行政や経済の動向などについて情報共有がなされ、実りある会議となった。

次回は、平成29年2月ごろに本会事務所で開催の予定である。

## JART-JSRT定期懇談会開催される

平成29年7月28日（金）午後3時半より、日本放射線技術学会事務所においてJART-JSRT定期懇談会が開催された。この定期懇談会は年2回、定期的にJARTとJSRTが連携協議や情報共有のために開催しているものである。本会からは中澤会長、佐野副会長、熊代副会長、中村理事、児玉理事、野村事務局長の6人、JSRTからは小倉代表理事、船橋副代表理事、錦副代表理事、奥田副代表理事、平野委員、宮高事務局長の6人が出席した。

今回は、日本医療放射線技術関連認定機構連絡会議の在り方について、両会から活発な意見交換が行われた。さらに読

影の補助に対する考え方について、およびJART-JSRT合同市民公開講座について審議が行われた。また本会からJART創立70周年記念式典のお礼、診療報酬要望書について、Aiガイドラインについて、中小医療機関向け医療機器保守点検の在り方に関する研究班について、および医療放射線の適正管理に関する検討会について報告を行った。JSRTからは執行部の変更について、J-J将来構想会議からの答申、TWSRTとの学術協定について、および今後の学術大会について報告があった。

次回は、平成30年1月ごろに本会事務所で開催の予定である。

## 平成29年度 第1回 実践医療被ばく線量評価セミナー開催報告

平成29年6月18日(日)、本会事務所講義室において標記セミナーが開催された。毎回、募集定員の申し込みを頂いており、本セミナーへの関心の高さがうかがえる。本セミナーは、線量推計ソフトを実際に用いた実習型講習会ということに加え、受講者の多くが医療被ばく低減施設の認定取得を目的としており、実習をサポートするインストラクターも認定施設に従事する方々や認定審査を行うサーベイヤーの方にお話し、施設認定取得に関する質問にも対応している。受講者からは「評価値をどのように取りまとめればいいのか」「評価値を臨床業務に反映させる方法」など、実務的な質問を頂き、アドバイスが行われていた。また施設認定取得に際しての経験談や情報交換が気軽に行えることも、本セミナーの特徴である。

一般撮影(透視検査含む)の講義では、推計ソフトであるPCXMCの操作方法や推計時の注意事項に始まり、推計結果が表す意味などの解説が行われた。CTでは、ImPACTに加え、本年度からはWAZA-ARiv2の開発に従事した国立研究



開発法人放射線医学総合研究所 古場先生をお招きし、登録方法や使用の際の注意事項など、詳細なご説明を頂いた。WAZA-ARiv2は操作性も良くフリーソフトであることから、今後、普及することが予想される。現時点では一部の装置で利用はできないが、順次更新予定との説明があった。

(医療被ばく安全管理委員会 鈴木賢昭)

### 「実践医療被ばく線量評価セミナー」に参加して

#### 守屋 克之

昭和大学病院 放射線室

#### 参加者の声

東日本大震災による原発事故以来、人々の被ばくへの関心は高まっています。医療の現場においても被ばくに関する不安の声は少なくありません。そんな中、私たちの施設では、昨年末に被ばく低減施設の更新を迎え、資料やマニュアルの再確認を行いました。以前、被ばく低減施設の認定申請を行った時と今回では、放射線室の装置構成やソフトの更新により、資料の改定が必要なものがありました。私は、今回の更新でCT検査における資料見直しを担当しましたが、苦慮する部分が多々ありました。今回、このセミナーに参加した理由は、

医療被ばく線量評価について、普段サーベイヤーを担当している方々やインストラクターの皆さまから、直接話を聞ける機会があると知り、参加させていただきました。

セミナーは、一般撮影・IVR・CTに分けられ、それぞれの講義は、推計ソフトを使用した線量評価の実践という内容であったため勉強になりました。特にCTの科目では、2種類のソフトについて説明があり、ソフトの概要からその違い、今後の方向性など大変興味深い内容でした。今回のセミナーを受講して得た知識を生かし、より充実した被ばく管理を行い、被ばく低減施設認定を得ている病院として、しっかりと対応していきたいと思います。今回は、本セミナーに参加させていただきありがとうございました。

#### 齋藤 敦子

川崎市立川崎病院

#### 参加者の声

過日、日本診療放射線技師会講義室で開催された「実践医療被ばく線量評価セミナー」に参加しました。

初めは、診断参考レベル(DRL)についての講義でした。診断参考レベルは線量最適化のツールであるという基本的なことから話していただき、まだまだ知識の少ない私にとって

はとてもありがたかったです。また各医療施設が医療被ばく低減施設の認定を取得することで、国民に「医療被ばく低減」という病院選択肢を提供し、より安全・安心な施設として信頼を得ていこうというお話があり、私たちがこれからどこへ向かうべきなのかを明確に知る素晴らしい機会となりました。

その後は、線量評価ソフトを使用した実習があり、自施設の撮影条件の評価を行いました。一般撮影・透視・IVRには

「PCXMC」、CTには「ImPACT」「WAZA-ARiv2」を使用しました。全て初めて触れるソフトでしたので難しく感じましたが、自分で計算することなく実効線量が算出できるのは、日常業務の中に容易に取り入れることができ、これから撮影

条件を見直していくのにとっても役立つと思いました。

今回参加させていただき、たくさんの学びがありました。講師・スタッフの皆さまに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 医療放射線管理に関する座談会開催される

平成29年7月10日（月）、本会事務所会議室において医療放射線管理に関する座談会が開催された。テーマを『医療被ばく低減：それぞれの立場から～「医療放射線の適正管理に関する検討会」の設置を受けて～』とし、7人で討論を行った。出席者は、厚生労働省医政局地域医療計画課長 佐々木健氏、本会より中澤靖夫会長、熊代正行副会長、日本画像医療システム工業会より経済部会長 野口雄司氏、副部会長 鍵谷昭典氏、特別委員 井上清氏、主任技師 小田雄二氏、司会はMEジャーナル編集長の半田良太氏で行われた。

主な議題として「放射線被ばく低減の在るべき姿」「放射線教育について」「新技術の誕生と普及に向けた課題」「放射線医療機器の保守管理について」「ICTの利活用と今後の課題」を取り上げ、約1時間30分にわたり活発な議論が交わ



された。

なお座談会の詳細は、MEジャーナルに掲載される予定である。

## 第4回 FRT九州研修会 報告記

平成29年7月29日（土）、九州地域放射線技師会の女性活躍推進事業である第4回FRT九州研修会が「やる気スイッチ見つけてますか？」をテーマに、福岡県福岡市で開催された（参加者85人）。

基調講演では、中澤靖夫会長より「女性活躍推進班と日本診療放射線技師会が求めるものとは」と題して、グローバルな視点から日本の女性活躍推進の現状についてご講演いただいた。テーマ討論では「新人教育どう育てる？ 育ててもらおう？」というテーマで、事例に基づく寸劇を交えた楽しい討論会が行われ、新人教育におけるノンテクニカルスキルが重要であると集約された。他にもワンポイントレクチャーや教育講演が行われ、研修会後の情報交換会では多数の方にご参加いただき、楽しい博多の夜を過ごしていただいた。



本研修会開催に当たり、ご尽力された福岡県診療放射線技師会 中村泰彦会長、中原博子副会長はじめ役員の皆さま、九州各県の女性活躍推進委員の皆さまに感謝申し上げます。

（九州地域理事 江藤芳浩）

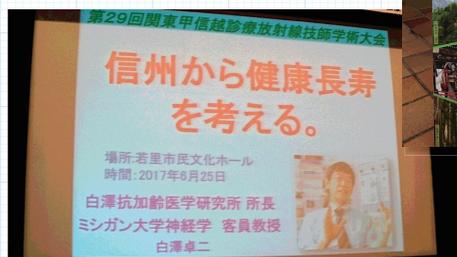
# 平成29年度 関東甲信越診療放射線技師 学術大会(長野大会)報告記

公益社団法人日本診療放射線技師会  
南関東地域理事 篠原 健一

平成29年6月24日(土)・25日(日)の2日間、平成29年度関東甲信越診療放射線技師学術大会(主催:日本診療放射線技師会・北関東地域/南関東地域)が、長野市若里市民文化ホールにおいて「信州から発信 健康長寿を目指して~高齢化社会で求められる放射線診療・医療サービス~」をテーマに開催されました(2日間延べ参加人数709人)。

長野県は健康長寿県として有名です。長野県健康福祉政策課のホームページには「平成25年2月28日に厚生労働省から発表された“平成22年都道府県別生命表”によると、長野県の平均寿命は男女共全国1位。また平成22年の健康寿命のうち、“日常生活動作が自立している期間の平均”が、男女共全国1位となりました。この事実象徴される全国トップレベルの健康長寿は、長野県が世界に誇ることができる財産であるといえる」とあります。

このことも踏まえて前述のテーマを掲げました。大会の内容は、一般演題91題、市民公開講座「信州から発信/健康長寿を目指して」(白澤抗加齢医学研究所所長白澤卓二先生)をはじめ、特別講演「Aiの原点・医療と文学」(海堂尊先生)、日本診療放射線技師会熊代副会長の教育講演「診療放射線技師の将来展望と技師法改正に向けて」、認知症画像診断に関する市民公開講座、放射線治療専門放射線技師認定機構協賛によるミニマムセミナー「治療計画装置の基礎と未来」など、意味深い企



画で行われました。

閉会式での演題表彰では、優秀演題として「PCI支援ソフトウェアを用いた被ばく低減の検証」(岡田翔太氏 埼玉県済生会川口総合病院)、「求人情報分析による診療放射線技師の需給バランスの推定」(久田友頼氏 群馬県立県民健康科学大学 診療放射線学部)、「モンテカルロ法による塩化ラジウム内用療法における内部被ばく線量の検討」(加藤和希氏 群馬県立県民健康科学大学 診療放射線学部)、「斜入X線が散乱線除去ソフトウェアの散乱線除去効果へ及ぼす影響についての基礎的検討」(新井雄太郎氏 横浜市立大学附属市民総合医療センター)の4演題、大会長表彰として「ファントムの不均一性がADC値に及ぼす影響」(齋藤孝明氏 飯山赤十字病院)、「臨床画像の物理学的指標を満たすPET収集時間の再構築」(神谷直紀氏 長野赤十字病院)の2演題が表彰されました。

なお本学術大会において、東京都診療放射線技師会と学術交流協定を締結しているソウル特別市放射線士会(SRTA)から、安美燮会長はじめ6人の視察団を長野県診療放射線技師会の組織委員会のご配慮により温かく受け入れていただきました。来年の新潟大会、再来年の東京大会では、International Sessionによる具体的な交流が決まっております。

最後に、本学術大会の開催にご尽力いただきました一般社団法人長野県診療放射線技師会 中沢利隆会長、小山登美夫実行委員長ならびに実行委員の皆さま、南北関東地域各技師会の皆さまに心より感謝・お礼を申し上げます。



## 平成29年度 第1回 医療画像情報精度管理セミナー 開催される

平成29年6月24日（土）、鈴鹿医療科学大学で平成29年度第1回医療画像情報精度管理セミナー（医療画像情報精度管理士スキルアップセミナー（1））が開催された。第1回は「医療画像管理における災害対策」をテーマに、災害に対する備えへの解説と、実際に災害を経験した施設からの報告がなされた。

「画像データを災害からどう守るか？ ～外部保管の現状～」では、画像データの保存性の確保に関して、現状の課題と災害から画像データを守るために、外部保管やクラウドコンピューティングサービスの導入におけるポイントが示された。

「システムを災害からどう守るか？ ～災害時のためのBCP～」では、医療施設において災害発生時から普段以上に事業継続の必要性が上がる点を考慮し、どのようにシステムを災害から守るかなど、災害発生時に備えたBCP作成に関してのポイントが示された。



「6年後の今、何が変わったか？ ～東日本大震災の経験から学ぶ～」では、実際に震災を経験した演者から、東日本大震災の際の現場の課題と6年後の課題と対策が報告された。

「想定外を想定内に ～平成28年熊本地震の経験から学ぶ～」では、実際の現場の状況から、今、何を準備しなければならないかが報告された。

最後に、今回の開催地は三重県であり、南海トラフ地震への警告がなされている地域に当たる。本セミナーでは、これからどのような準備が必要であるか、震災当日はどのような状況であったか、何が不足し、医療画像情報精度管理士としてどのような知識と技術が必要であるかが、より身近な課題としてディスカッションされた。本セミナーが実際の現場の防災対策・BCP対策の作成の参考になれば幸いである。

## 平成29年度 第1回 被ばく線量適正化講習会 開催される

平成29年7月29日（土）午後1時より、標記講習会が東京都中野区 中野サンプラザ研修室で開催された。本会 横田浩理事のあいさつの後、医療被ばく安全管理委員会委員長 鈴木賢昭氏より「DRLの概要について」、医療被ばく低減施設認定サーベイヤーでもあるJCHO 船橋中央病院 山本進治氏より「訪問審査から見えてくる医療被ばく低減施設認定への取り組み」の講演が行われた。休憩の後、群馬県立県民健康科学大学大学院診療放射線学研究所 杉野雅人准教授より「環境放射線調査結果報告—低線量被ばくについて考える—」の講演があり、最後に総合討論が行われた。

総合討論では「DRL見直しの情報」「医療被ばく低減施設認定における放射線管理士の中心的役割とは何か」「水晶体被ばくの規制強化に伴う頭部CTの今後について」など、



時間がなくなるほど活発な討論が行われた。第2回は愛知県で開催予定であり、特別講演として朝日新聞社特別報道部記者（医療・被曝担当）大岩ゆり氏を予定している。多くの会員の参加を期待し、講習会報告としたい。

## 第24回 ナイトセミナー開催される

平成29年6月26日(月)午後7時半より、本会事務所講義室で第24回ナイトセミナーが開催された。東京都内も梅雨入りし蒸し暑かったこの日、32人の受講生がセミナーに参加した。講師には、MRIや救急領域でご活躍中のJA神奈川県厚生連 相模原協同病院の長岡学先生をお迎えし「頭部疾患について」をテーマにご講演いただいた。講義の序盤は、MRI画像を用いて「頭部において覚えるべき基本的な画像解剖」について述べられた。正常像を用いて脳実質の解剖から動静脈の血管系に至る解説がなされ、特に、動脈系では内頸動脈や中大脳動脈などの代表的な血管に対して、その走行や分岐・区域などについて非常に分かりやすく説明された。後半は、知っておきたい正常変異から代表的な急性疾患までの症例が提示された。急性疾患では、まず脳出血(脳内出血、くも膜下出血、硬膜下・外出血)が取り上げられ、その病態から画像所見までの解説がなされたが、ただ単に画像を供覧するのではなく、その画像所見を基に医師がどういう判断をし、ど



のように治療戦略を立てていくのかが詳細に述べられ、実臨床に即したかたちで理解をすることができた。脳梗塞では、その分類とそれぞれの脳血管の支配領域における主な神経症状についての解説があり、それに対する血栓溶解療法や血栓回収術などの治療方法が述べられた。また脳梗塞様の症状を呈する疾患の話もあり、併せて理解することができた。

全体を通してとても充実した内容であり、セミナー終了後に行われたアンケートにおいても好評であった。

## 健康長寿社会

シリーズ連載  
series serialization

五感 — five senses

プロスキーヤーで登山家の三浦雄一郎さんは、2013年に史上最高齢の80歳で世界最高峰エベレスト(8,848m)の登頂に成功した。75歳で2度目のエベレスト登頂を果たした際に「80歳でもう一度エベレストへ行きたい」と宣言したが、76歳の時に骨盤と大腿骨の付け根を骨折する全治6カ月の大けがに見舞われた。さらに持病の不整脈も2度の心臓手術を受けて克服したというから脱帽する。自身の著書には「夢を諦めることこそが、人間にとって最も無理をしている状態なのです」と語っており、単に言葉だけでなく身をもって実践したのである。記者会見では「諦めなければ夢が実現できる。エベレストの登頂は、夢を見て、諦めず、これを実行した。素晴らしい宝物が僕の心の中にプレゼントされました」と語った。

誰しも健康で長生きを願うと思うが、わが国の実態はどうであろうか。厚生労働省が発表した平成22年の統計によると、日本人の平均寿命は男性が約80歳、女性が約86歳で共に世界有数の長寿国である。太平洋戦争直後の平均寿命(1945~50年ごろ)は、男性50歳、女性54歳であり、格段のことといえよう。

一方、健康寿命という概念があり、日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間のことをいう。平均寿

命から介護(自立した生活ができない)を引いた数が健康寿命になる。前出の統計では、日本人の健康寿命は男性で約70歳、女性で約74歳だそう。つまり、日本では介護状態や寝たきりになる期間が平均9~12年あるということだ。そして平均寿命に比べて健康寿命の伸びがなく、その差が年々大きくなっているといわれる。

健康長寿社会実現を常々提唱する武見敬三参議院議員は「高齢化社会にとって重要なのは、加齢に応じた健康と経済的な安心感であり、社会全体の活力を維持していく上でも、いかに健康寿命を延ばすかに焦点を当てた社会の仕組みづくりが急務」と語る。中でも、医療・労働環境などに求められる課題は大きい。われわれの組織も「がん対策推進基本計画」に基づく診療放射線技師育成の充実と環境整備や、チーム医療を推進するための診療放射線技師の活用について積極的に働き掛け、技師法の改正も含む政策実現に注力していかなければならない。

最後にもう一つ、三浦さんの言葉を紹介する。

「老いは怖くない。目標を失うのが、怖い! 何のために長生きしたいのか。健康の先に何をしたいのか。その目標がはっきりしないと、ただの怠け者になってしまう」

(文責: 篠原健一)

第33回



# 日本診療放射線技師 学術大会

The 33rd Japan Conference of  
Radiological Technologists (JCRT)

## 第24回東アジア学術交流大会

The 24th East Asia Conference of  
Radiological Technologists (EACRT)

国民と共にチーム医療を推進しよう

Let's promote team medical care with the nation

## 未来への開港 — 技の継承と飛躍 —

Open a Port to the Future: The Succession and Progress of Techniques



**会期** Date 2017年9月22日(金)~24日(日) September 22nd (Fri)-24th (Sun), 2017

**会場** Venue 函館市民会館・函館アリーナ Hakodate civic hall / Hakodate arena

**会長** President 中澤 靖夫 (公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長)  
Yasuo Nakazawa (The Japan Association of Radiological Technologists)

**主催** Host 公益社団法人 日本診療放射線技師会  
The Japan Association of Radiological Technologists

**大会長** Chairman 板東 道夫 (一般社団法人 北海道放射線技師会 会長)  
Michio Bando (The Hokkaido Association of Radiological Technologists)

**共催** Cosponsor 一般社団法人 北海道放射線技師会  
The Hokkaido Association of Radiological Technologists

**運営事務局** Secretariat 株式会社コンベンションワークス 〒003-0809 札幌市白石区菊水9条3丁目1-17 TEL:011-827-7799 FAX:011-827-7769 E-mail:jcrt33@c-work.co.jp  
Convention Works Corporation 1-17, 3-chome, Kikusui 9-jo, Shiroishi-ku, Sapporo, 003-0809 E-mail:jcrt33@c-work.co.jp

<http://c-work.co.jp/jcrt33/>



## 本会の動き

## 国際委員会より

国際委員会は12人の委員で活動を行っています。国際委員会が行う主な事業は次の5点になります。1)WHO協力センターとしての教育事業 2)世界診療放射線技師会(ISRRT)との学術交流事業 3)アジア・オーストラレーシア(AACRT)地域との学術交流事業 4)東アジア地域との学術交流事業 5)その他、国際学術交流に必要な事業——です。これらの内容については平成29年度事業計画にも記載されています。世界診療放射線技師会(ISRRT)との学術交流事業では、2016年10月に韓国ソウルで開催された第19回ISRRT世界大会で、国内に積極的に広報を行い、日本から40演題を登録することができました。演題数は韓国を除けば、世界で最も多い数となりました。また昨年開催された第32回日本診療放射線技師学術大会(岐阜)では、ISRRT役員および海外の研究者を学術大会に招聘し、招待講演を企画しました。今年開催される第33回日本診療放射線技師学術大会(函館)では、ヨーロッパ地域診療放射線技師会およびニュージーランド診療放射線技師会の役員を招聘し、診療放射線技師の免許制度や教育制度について紹介していただく予定です。さらにアジア各国の会長を第33回日本診療放射線技師学術大会に招聘し、Asia Forumを開催する予定です。これらを通じて、外国の診療放射線技師免許制度や教

育制度を多くの会員が学び、今後のわれわれの業務内容などを見直すきっかけになればと思います。

また本会は、アジア・オーストラレーシア(AACRT)地域の診療放射線技師会と積極的に交流を行っています。特に、日本・韓国・台湾の3国が中心となり、アジア地域の放射線医療技術の向上と教育支援を行うとともに、東アジア学術交流大会(EACRT)を毎年実施し、英語による演題発表を奨励しています。ISRRT・AACRT・EACRTについては、毎年10演題に対して海外研究発表者助成を行い、会員による英語発表に対して支援を行っています。2021年には第23回AACRT学術大会が日本で開催することが決まっているため、会員の英語発表をさらに奨励するとともに、国際委員会では海外からの演題募集を広く行い、多くの外国人が参加しやすい学術大会となるような企画を考えています。

今後も国際委員会では、アジア地域の診療放射線技師会と積極的に学術交流を行い、会員が英語によるコミュニケーションを取りやすくなるよう支援するとともに、相互交流ができるような環境整備を行いたいと考えています。会員の皆さまの積極的な参加をお待ちしています。(文責：児玉直樹)

## 9月・10月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

- 業務拡大に伴う統一講習会：
 

愛媛	9月30日(土)～10月1日(日)	京都	10月7日(土)～8日(日)
北海道①	10月8日(日)～9日(月・祝)	北海道②	10月8日(日)～9日(月・祝)
茨城	10月8日(日)～9日(月・祝)	群馬	10月14日(土)～15日(日)
千葉	10月14日(土)～15日(日)	三重	10月14日(土)～15日(日)
兵庫	10月14日(土)～15日(日)	大分	10月14日(土)～15日(日)
静岡	10月15日(日)・22日(日)	神奈川	10月28日(土)～29日(日)
福井	10月28日(土)～29日(日)	愛知	10月28日(土)～29日(日)
沖縄	10月28日(土)～29日(日)		
- 基礎技術講習(X線CT認定技師指定講習会)：新潟 9月30日(土)～10月1日(日)
- 基礎技術講習(X線CT検査)：
 

岩手	10月1日(日)	栃木	10月29日(日)
京都	10月29日(日)		
- 基礎技術講習(血管造影検査)：富山 10月7日(土)
- 基礎技術講習(超音波検査)：兵庫 10月22日(日)
- 超音波実技講習会「血管編」：東京 9月18日(月・祝)
- 超音波実技講習会「腹部領域」：東京 10月29日(日)
- 腹部エコーハンズオンセミナー：北海道 9月22日(金)
- CTCハンズオンセミナー：北海道 9月23日(土・祝)
- ナイトセミナー：東京 9月25日(月)
- マネジメント研修会：東京 9月30日(土)～10月1日(日)
- 医療被ばく低減施設認定取得セミナー：東京 10月15日(日)
- 被ばく線量適正化講習会：愛知 10月15日(日)
- 放射線取扱主任者定期講習：東京 10月20日(金)
- Ai認定講習会：東京 10月28日(土)～10月29日(日)

### 事務所案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。  
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。